



## 平成28年熊本地震 応急復旧活動

～広島市指定上下水道工事業協同組合～

組合水道施設復旧応援班編成 被災水道施設復旧作業へ出動



要請書伝達式（写真左：野津山水道局長、右：古川理事長）

平成28年4月14日午後9時26分、気象庁震度階級では最も大きい、九州地方では観測史上初めての震度7の「平成28年熊本地震」が発生しました。翌々日の4月16日午前1時25分には、前震（マグニチュード6.5）を上回るマグニチュード7.3の本震が発生。さらに本震後わずか2週間で1,000回を超える未曾有の余震が起きるなど、熊本県一円及び大分県において多くの人命や家屋等が失われ、水道、電気、ガスなどのライフラインも大きな被害を受けました。

4月25日、被災水道施設（公道上配水管）復旧作業への出動について、当組合に広島市水道局から「災害時における応急措置の協力に関する協定」（平成8年締結）に基づく出動要請があり、4月27日の第1回理事会でその要請を議決するとともに、前日の組合員（外線当番店）による会議で編成した復旧応援班（第



出発式（4月28日午前8時30分）



水道局基町庁舎前に勢ぞろいした復旧応援班の車両

1班～第4班：延べ人員215名）を、4月28日から5月14日まで交代制で現地（熊本市）へ派遣することにしました。

4月28日、第1班は使用機材を積載した車両等で現地に行き、その後第2班、第3班と被災水道施設復旧作業に従事していましたが、被災地の水道施設復旧の進捗状況等から、5月10日、水道局より協力要請を5月13日で解除するとの通知があり、5月14日、任務を終えた復旧応援班（第4班）全員が帰広しました。

## 被災地水道施設 復旧作業



### 熊本地震被災水道施設復旧作業体験記

去る4月28日(休)から5月2日(月)にかけて熊本地震被災水道施設復旧応援班の第一陣として、広島市水道局において出陣式を行い、14名が工事車両9台で被災地熊本市に向け出発しました。

熊本市内に近づくにつれ、屋根をブルーシートで覆った多数の家屋、また高速道路を降りると古い家屋のほとんどに、倒壊の危険度を知らせる赤い紙や黄色い紙が貼られているのを目の当たりに

し、改めて地震の恐ろしさを思い知らされました。

復旧作業につきましては、配水管の修理はほとんどが終了しており、上の写真のように給水管の漏水修理が主な作業となりました。特に印象に残っているのが、10階ほどのマンションで赤い紙が貼られた、いわゆる危険な倒壊しかけている建物の真下でΦ50mmの鋼管を修理したことです。余震が続く中で、立ち入り禁止のこのマンションは、屋上の高架

水槽が壊れていて断水中、いつ倒壊するかわからないにもかかわらず、3世帯の住民が住まれている、緊張の中の冷や汗ビッショリの作業でした。また、熊本市内はいたるところが大渋滞で、水道の資材置き場に行くのにも時間がかかり、修理もなかなかはかどりませんでした。

宿泊はオフィスビルの一室で、タイルの上にロールマットを敷いての寝泊まりでした。夜中に何回もの余震があり、と

ても熟睡できませんでしたが、毎朝、広島市水道局との打ち合わせで熊本市の体育館に行くと、大勢の被災者の方が不自由な避難生活をされており、贅沢は言っていられないという心境になりました。

一日も早く被災された方が、以前の生活に戻れますようあの悲惨な震災が過ぎた今日も心から祈っております。

(宮迫：記)

全管連では熊本地震の地元組合の応急復旧活動について、本誌・HPにて紹介いたしますので、ご寄稿をお願いします。

## 小冊子「水道工事の事故防止」 有償頒布開始 好評受付中

全管連

全管連においては標記冊子を好評頒布中です。社員教育や安全大会等でぜひご活用ください。

お求めは全管連所属の地元組合又は全管連へお申込下さい。

なお、全管連に直接お申込の場合は、送料ご確認の上、最寄りの郵便局で現金書留又は郵便振替（口座番号00110-6-88614）を利用して前金にて代金（3,000円（10部セット・税込））と送料をお送り下さい。10部単位でのお申込になります。なお、送料は本会ホームページ（<http://www.zenkanren.or.jp/issue-books/>）で確認できます。

お問い合わせは、全管連事務局まで。

